

Brown Bag Seminar

ブラウンバックセミナー

録画期間限定公開
オンライン (Zoom)

2021.9.8

(水)



登録はこちら

【技術支援】九州大学 Q-AOS & TEMDEC

日 ← 同時通訳 → 英

12:10 ~ 12:50

- 12:10-12:15 ◆ 演者紹介
- 12:15-12:40 ◆ プレゼン
- 12:40-12:50 ◆ 質疑応答

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_UDQIWzT2TXqOQBx5xpkbMQ

アジアにおけるフィールド研究： 地域の特性に応じたサステナブルで健康な居住環境を目指して

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)

建物は我々の生存に欠かせないシェルターですが、その一方で世界の主要なエネルギー消費源のひとつとなっています。IEA（国際エネルギー機関）の2017年統計によれば、2015年の世界の最終エネルギー消費量の30%、エネルギー関連のCO2排出量の28%が建築由来です。建築に関連する環境負荷低減が求められる所以です。一方、今後の気候変動を考えると、特に高温地域では、熱中症による健康リスク軽減のための適切な居住環境がより必要となっていくでしょう。しかし、発展途上国の多くの低所得世帯にとって、空調設備はまだ手の届くものではありません。一方、寒冷地の開発途上国では、暖房用の燃料ストーブによる屋外・屋内の大気汚染による健康被害の問題が報告されています。このような状況の中、本セミナーでは、発展途上地域において健康・快適性と環境性のトレードオフを踏まえて、多くの人々にとって affordable* な居住環境を模索した幾つかのフィールド研究として、モンゴル、インドネシア、マレーシアの事例を紹介します。

affordable* 多くの人々、低所得者世帯に手が届く、適用可能、という意味



萩島 理 教授

九州大学 総合理工学研究院

1993年に九州大学工学部建築学科卒業、1995年に九州大学大学院工学研究科修士課程を修了しました。その後、東京大学施設部にて建築設計や施工に関する実務に2年間従事した後、1997年に九州大学にて研究者としてのキャリアをスタートしました。同大学で工学博士号を取得後、2005年に准教授、2015年に教授に昇任しています。専門分野は、都市気候学、風工学、建築環境工学です。特に最近では、マレーシア、インドネシア、インド、中国、モンゴルなどのアジアの開発途上国で、現地の研究機関と協力して、地域の状況に合わせたスマートでアダプティブな建築環境を実現することを目指して、フィールド研究を行っています。

サステイナブル建築

省エネルギー

Key Words

パッシブデザイン

健康リスク

